

私のすすめるこの1冊

相澤 伸幸 (本学 理事・副学長)

『倫理書』(『新修 森有禮全集』[全9巻]の第2巻に所収)

森有禮(監修)

来年で本学は創基 150 年を迎えることになる。『京都教育大学百二十年史』を繙いてみると、明治 19(1886)年の師範学校令発布以降の記述が個人的には興味深かったが、その師範学校令の制定にあたった人物こそ、初代文部大臣・森有禮である。そこで少し強引かもしれないが、今回、森有禮を紹介したい。

薩摩藩からの留学生として英国で学び、また合衆国で活動するなど、豊富な国際経験を持つ森有禮が、20代前半の若さで駐米少弁務使になり、その後、代理公使へと昇進していったことは、当時としても異例のことである。そして彼は、忙しい立場にありながらも、行政や宗教や教育などさまざまな領域において熱心に欧米の知識を吸収していった。当時、合衆国においてすら珍しかったフレーベル発案の幼稚園(キンダーガルテン)も積極的に視察しており、こうした心意気は、後に文部大臣になってからも変わらなかった。

加藤弘之から、極めて粗大な性格であり、思慮を用いることが少ないと評された森有禮であるが、彼の取組のひとつに、尋常小学校での修身の教科書は徳目主義的であり難しすぎるとしてこれを廃止し、口授による修身を推進したことがある。その指導を担う教員を養成するために、尋常中学校と師範学校の倫理科の教科書として編纂されたのが、今回すすめる『倫理書』であり、明治 21(1888)年 3 月、文部省編輯局から出版された。とは言え、本学の前身である京都府(尋常)師範学校にて使用された形跡は見つけ出すことができず、またこの書

について、森が監修したことは確かであるが、執筆は能勢栄が起稿したのち高嶺秀夫や国府寺新作の批評を加え、菅了法が修正を加え、最後に森の意見を加えて能勢が再度修正するなど、複雑な過程を経ている。このようになった理由は、当初、西村茂樹、菅了法、嘉納治五郎、能勢栄、デニングの5人の委員が『倫理書』の内容を検討したがまとまらず、結局は森の信頼厚い能勢がひとりで執筆することとなったことが原因であろう。それゆえ、森有禮の著作と呼ぶのは難しいので、今回は森有禮監修として紹介したい。

さて、森は元田永孚にあらかじめ本書の初稿を送って意見を求めている。思想的に異なる立場にいた元田は、当時の欧米の学問の新しい知見をふんだんに取り入れた本書に、大修正を要求した。また、福澤諭吉にも意見を求めた。啓蒙思想家である福澤は、道徳教育では徳目を子どもたちに教えていくことこそが基本であり、Sentiment、Sympathy など本書に多く記述されている心理学的内容は必要ないと指摘している。そのような背景を知った上で本書を繙くと、内容の(よい意味での)斬新さが理解でき、また当時の師範学校において教育学や倫理学がどのように教えられていたのか把握できてたいへん参考になる。

と、ここまで書いたところで、残念ながら紙幅が尽きてしまった。森が暗殺された背景は稲田正次著『教育勅語成立過程の研究』が、そして彼の宗教観は『林竹二著作集』が参考になるので、さらに興味がある方はそれらを参考にさせていただきたい。

報告

第6回教育展『楽器の世界：子どもと音楽をつなぐ楽器展』

2024年11月1日から12月23日にかけて附属図書館1階企画展示室にて、第6回教育展『楽器の世界：子どもと音楽をつなぐ楽器展』が教育資料館(まなびの森ミュージアム)の主催、附属図書館の共催のかたちで開催されました。

教育資料館には、本学が教育大学であることを反映し、たくさんの教育用楽器や玩具的楽器が所蔵されています。そこで今回は、「子どもと音楽をつなぐ楽器」という視点でこれらを紹介することにしました。まずは第1部において、「楽器の世界」への入り口として、世界で広く採用されている楽器分類法、ホルンボステル＝ザックス法に基づき世界の玩具的楽器を紹介しました。続く第2部では日本の近代音楽教育史に位置付けながら日本の教育用楽器を、そして第3部では「世界の教育用楽器」として韓国、ドイツ、フランスの楽器を紹介しました。紹介した楽器のうちのいくつかは、来場者にも演奏していただけるようにし、会期中は展示室から小さな楽器たちの音色がもれ聴こえてきました。



関連イベントとして、11月3日には大阪市立科学館学芸員の上羽貴大先生を招き、本学演奏室にて科学と音楽のワークショップ『こすって鳴らす楽器のふしぎ』を開催しました。15名の参加者が、様々な「こすって鳴らす楽器」を体験し、木片に切れ目を入れて指でこすって鳴らすアルブラッソンという楽器を作成しました。参加者一人一人が「音が鳴るふしぎ」や「音が科学的現象であること」に改めて興味を引かれたようでした。



さらに12月1日には国立民族学博物館／総合研究大学院大学准教授の岡田恵美先生をお招きし、「世界は楽器に満ちている！

楽器の起源・機能・分類とは」というテーマでご講演いただきました。参加者との双方向のやり取りを交えながら、また実際に楽器演奏を体験しながらの先生のお話により、皆さん真剣に耳を傾け、講演後の質疑応答も活発なものとなりました。

今年も教育展には学生・教職員・卒業生・一般市民の皆さんなど、延べ約1,100名の方が来場されました。展示の様子は後日 YouTube で公開する見込みです。

檜下 達也(資料館運用担当、音楽科教員)



日曜開館します！

試験期間前の2月2日、9日(日)を開館(10:00～17:00)します。試験勉強などにぜひ！



春季休業に伴う長期貸出について

学部生:1月28日(火)～4月2日(水)
院生・教職員:1月14日(火)～3月19日(水)
【返却期限日】4月17日(木)



学修相談カウンター

学修相談カウンターでは、レポートや卒論、教育実習、就活などさまざまな相談を受け付けています。

【日時】授業期の月火木の昼休み

【場所】北館2階ラーニング・コモンズ

Web フォームもあります。→



事務局棟改修工事に伴う利用制限について

事務局棟改修工事のため、2月17日から以下の部屋を利用できません。

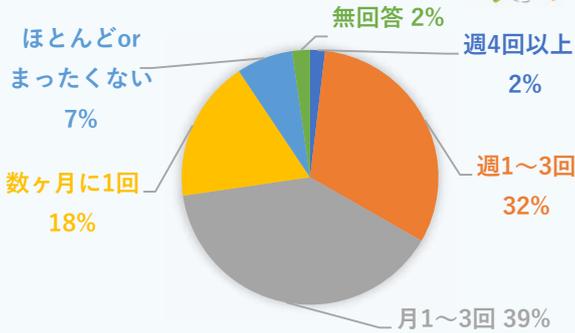
利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

対象箇所	利用制限期間
北館1階 リフレッシュラウンジ	2月17日～2026年3月31日 (予定)
北館1階 企画展示室	
北館2階 研修セミナー室1	
北館2階 研修セミナー室2	
北館2階 研修セミナー室3	



在學生アンケート 2024 を実施しました！

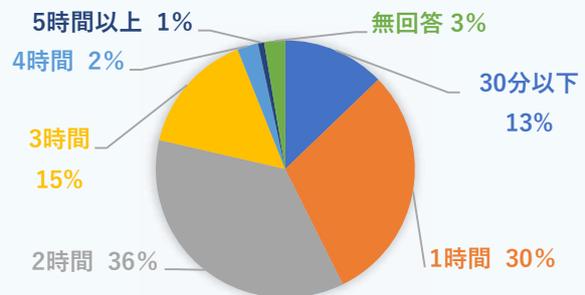
図書館をどれくらい利用しますか



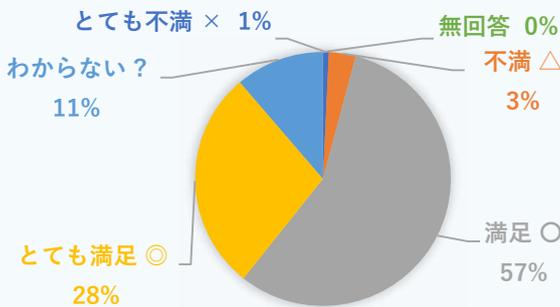
ご回答ありがとうございました。今後の図書館サービスの改善に利用させていただきます。また、3月から4月にも実施予定ですので、ご協力お願いいたします。

図書館に関する在學生アンケートを2024年3月25日から4月30日まで紙とWebで実施しました。合計267名の皆さまからご回答いただきました。

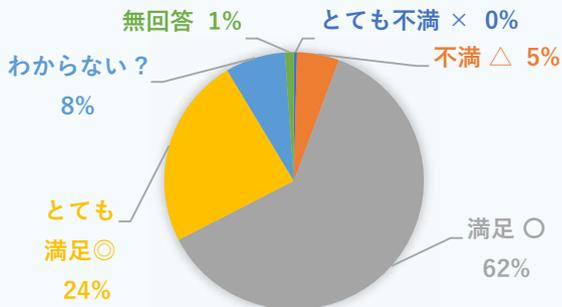
図書館の1回当たりの滞在時間はどのくらいですか



学習・研究などに必要なサービスが提供されている



図書館には必要な資料がある



京都教育大学 それはかなう夢講座

「先生になりたいーそれはかなう夢」は、京都教育大学のシンボルフレーズです。

第45回の報告

【講師】西園 静(美術科講師)

【テーマ】台所にあるもので絵具をつくろう

主催:「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のためのカリキュラム開発」プロジェクト委員会

後援:京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館

YouTubeにて公開中!

※今までの回も視聴できますので、ぜひご覧ください! →



展示案内

報告:京都教育大学 附属学校園こども美術作品展

1月21日(火)~1月27日(月)まで企画展示室にて

告知:さんばみち 小学校教科内容論音楽「記譜」課題作品展示

1月22日(水)~2月7日(金)までリフレッシュラウンジにて

第12回京都・大学ミュージアム連携 スタンプラリー
2025年3月24日(月)まで ※本学は連携参加大学です。

第28回ミュージアムロード スタンプラリー
2025年3月16日(日)まで

児童書コーナー(南館1階)



今月の絵本カード(学生作)

『あかちゃんがうまれたらなるなるなんになる?』
作・絵:スギヤマ カナヨ
出版社:ポプラ社



※児童書コーナーに
かわいいカードが飾ら
れていますので、ぜひ
見に来てください。

教育資料館 まなびの森ミュージアム

【2月の開館日時】

3日(月)、10日(月)、17日(月)、24日(月・祝) 14:00~17:00



今月の逸品(1~3月)

『標本「繭・棉の実から縫糸になるまで』』

展示場所:附属図書館

教育資料館 まなびの森ミュージアム
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

論のくちび理のむすび

今回の執筆者 徳永 俊太 (連合教職実践研究科 准教授)

イタリアにおける市民性教育の変遷—民主主義からSDGsへ—

徳永 俊太

京都教育大学紀要 2024, No.145, pp. 71-85
URI:<http://hdl.handle.net/20.500.12176/9876>



2019年9月に行われた国連気候変動サミットにおいて、若者たちが地球温暖化対策の不十分さを訴えたことを覚えておられる方も多いでしょう。同年、イタリアでは学校教育において気候変動問題を扱うようになったという報道がなされ、日本を含めた世界の国々で話題になりました。私は、この政策動向に関する学会報告を本学発達障害教育専攻の教員である丸山啓史先生に依頼されたことをきっかけに、研究を始めました。

本論文の結論を簡潔に述べると、イタリアでは気候変動問題だけではなく、国連による持続可能な開発目標(SDGs)が重視されています。SDGsはイタリア共和国憲法の理念に通じるものとして解釈され、学校教育の中心的な目標に据えられました。そして、持続可能な開発だけではなく憲法やデジタル・シティズンシップなど、これまでの教科では対応できない社会問題を扱うために、新しい教科である市民教育科が設置されています。こうした現在の状況だけではなく、私がこれまで研究してきたイタリア歴史教育の知見を参照して、イタリアにおける市民を育てる教育(市民性教育)がどのように変遷し、そして現在の形になったのかについても明らかにしました。

現代の社会問題を扱うという市民教育科の特性上、その学習内容は社会の動向に連動しています。この論文を書き上げた後の2024年9月には新たな市民教育科のガイドラインが示され、金融教育や交通教育を行うことが追加で強調されました。今後もイタリアの社会動向に目を向けつつ、研究を続けていきたいと思っています。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要145号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>に掲載されています。

開館日程

□9:00-20:00 ■9:00-17:00 ■10:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2025年2月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

2/8 大学院入試(学外者利用不可)
2/4-2/10 後期末試験
2/25-2/26 前期入試

2025年3月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

3/5 館内整理日
3/12 後期入試
3/25 卒業式

※開館日程につきましては、変更となる場合がございますのでホームページをご確認ください。

●京都教育大学附属図書館ホームページ
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/library/>
(QRコード→)



京教図書館 News No.293 (2025年2月号)
発行日:2025年2月1日
編集発行:京都教育大学附属図書館
問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp